



## 保護者ニーズ調査 親たちは学校に何を求めている！？

「つめ込み教育」の反省から、1996年の中央教育審議会の答申を受け、「ゆとり教育」という従来とは正反対の方向に進みつつある教育改革。昨年から施行された新学習指導要領では、学習内容が3割削減され、保護者の間に学力低下の不安が広がった。知識の詰め込みよりも体験を重視して、生きる力をつけようと導入された総合学習では、何を教えていいかわからないと学校現場の混乱を招き、保護者からは「そんなことよりも基礎学力をきっちり身につけて欲しい」との批判を浴びる結果となってしまった。公立校では学力は身につかない、と塾や私立中学受験を目指す保護者は増える一方。しかし、多くの保護者は、まだ公立校に期待しているし、公立校で子ども達を教育したいのである。

保護者たちが学校や教師に、本当に望んでいるのは何なのか、未就学児童～小学生の子どもを持つ母親200人にその胸のうちの聞いてみた。

### <回答者の基本情報>

#### 居住地

	合計	北海道	東北	関東	信越	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
全体	200	4	6	111	1	1	20	36	10	3	8
	100%	2%	3%	56%	1%	1%	10%	18%	5%	2%	4%

#### 年齢層

	合計	20代	30代	40代
全体	200	5	149	46
	100%	3%	75%	23%

#### 男女比

	合計	女性	男性
全体	200	200	0
	100%	100%	0%

#### 子どもの年齢

	合計	未就学児	小学校1~3年	小学校4~6年
全体	200	5	149	46
	100%	3%	75%	23%

#### 子どもの所属

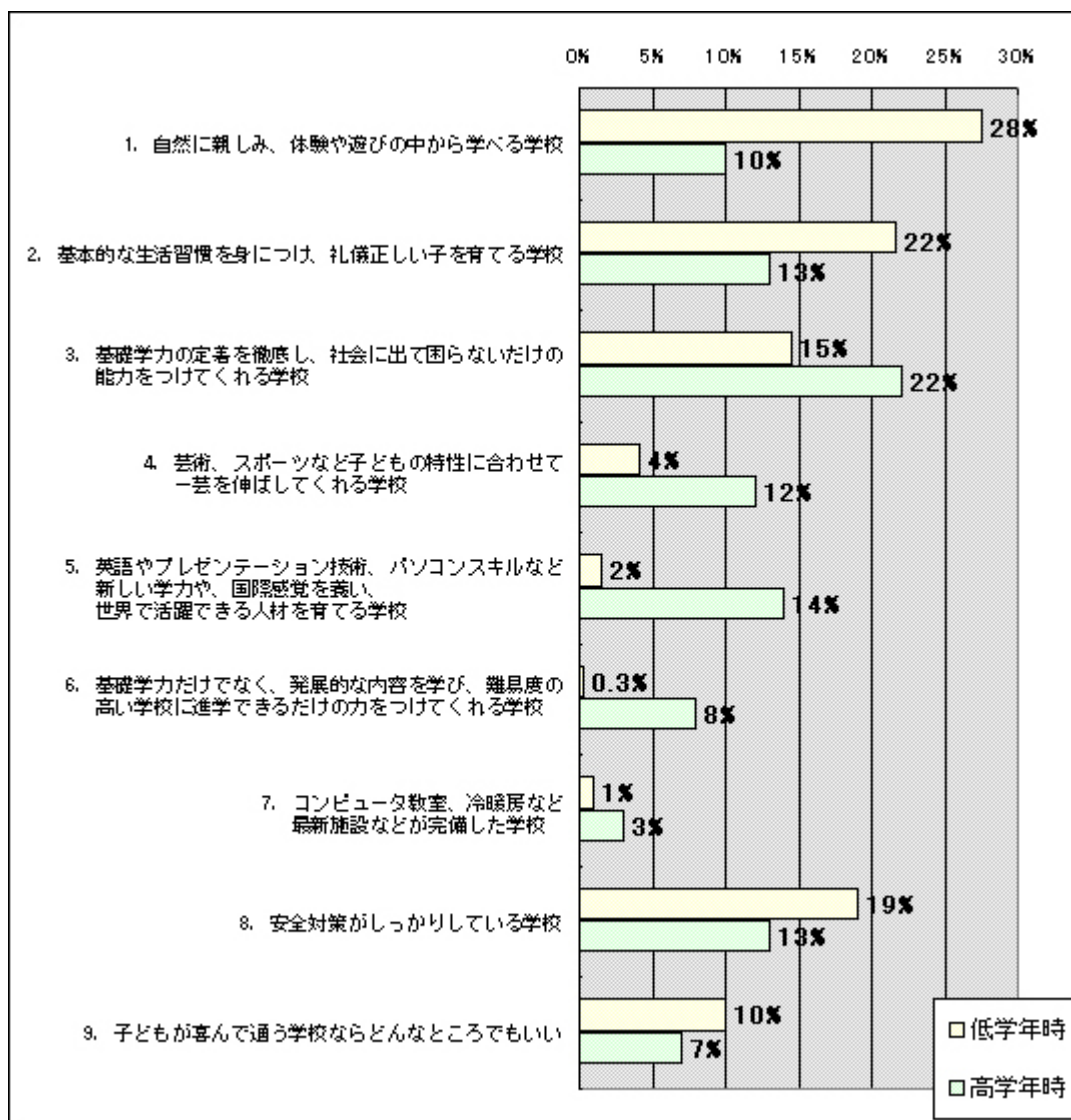
	合計	私立幼稚園	国公立幼稚園	保育園	国公立校	私立校
全体	200	65	10	20	155	0
	100%	33%	5%	10%	78%	0%

### <質問項目>

- Q1 あなたの理想とする小学校はどのようなものですか。
- Q2 あなたの理想とする教師像はどのようなものですか。
- Q3 あなたの理想とする校長(学校の責任者)像はどのようなものですか。
- Q4 学校の放課後や土曜日に、授業以外のサービスを求めるとしたらそれはどのようなものですか。
- Q5 私立校へ行かせたいと思いますか。
- Q5-1 私立校に行かせたい理由は何ですか。
- Q5-2 私立校に行かせたくない理由は何ですか。
- Q6 子どもたちの安全のために、学校にはどこまで対応して欲しいですか。
- Q7 学校の環境をよくするために何か協力するとしたら、どのくらい参加できますか。
- Q8 設備、教員、教育方針など、学校に関することで、「これはひどい」と思ったできごとをお書き下さい。
- Q9 その他、学校や教師に求めることをお書きください。



Q1 あなたの理想とする小学校はどのようなものですか。



<低学年の場合>

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
全体	600	165	130	87	25	9	2	6	114	62
	100%	28%	22%	15%	4%	2%	0.3%	1%	19%	10%

<高学年の場合>

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9
全体	600	58	76	129	73	85	47	17	76	39
	100%	10%	13%	22%	12%	14%	8%	3%	13%	7%



保護者が理想とする学校について聞いたところ、子どもが低学年の場合は「自然に親しみ体験や遊びの中から学べる学校」を上げた人が最も多く28% (165名)、次いで「基本的な生活習慣を身につけ、礼儀正しい子を育てる学校」22% (130名)、安全対策がしっかりしている学校」19% (114名)の順となった。

子どもが高学年の場合には、「基礎学力の定着を徹底し、社会に出て困らないだけの能力をつけてくれる学校」が22% (129名)で1位となる。低学年のうち、自然体験や基本的な生活習慣ができればいいが、高学年になれば、学力についてもきちんと指導して欲しいという保護者のニーズが読み取れる。

高学年の場合、2位以下は、「英語やプレゼンテーション技術、パソコンスキルなど新しい学力や、国際感覚を養い、世界で活躍できる人材を育てる学校」85名 (14%)、「基本的な生活習慣を身につけ、礼儀正しい子を育てる学校」76名 (13%)、「安全対策がしっかりしている学校」76名 (13%)、「芸術、スポーツなど子どもの一芸を伸ばしてくれる学校」73名 (12%)とほぼ同率で続く。このことから子どもの個性や才能が見え始める高学年では、子どもの特性によって保護者のニーズも、基礎学力、新しい学力、一芸、など多様化してくると言える。

学力低下がマスコミでは盛んに報じられているが、「基礎学力だけでなく、発展的な内容を学び、難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校」を挙げた保護者は低学年で0.3% (2名)、高学年で8% (47名)、全体ではさほど多くなく、保護者たちは学力低下論争について、意外に冷静であるとも考えられる。

また、低学年、高学年とも、「安全対策～」が上位に挙がっていることから、昨今に学校や子どもを対象とした凶悪な犯罪への不安が保護者間に広がっていることがうかがえる。

理想の学校像について、自由回答を見てみると

「子ども達のがびのびと楽しい学校であって欲しい」

「いじめや不登校などの問題がない学校」

「行くのが楽しくなる学校」

などの記述が多く、**「のびのびと子どもが楽しく通える学校」を多くの保護者が求めていることがわかる。**

この背景には、いじめや不登校が身近な問題として、保護者の不安要因になっていることに加え、次のコメントのように、教育改革に伴う不安も影響しているものと思われる。

週5日制になって子どもはすごく宿題も増えたとし、先生もノルマをこなすのに必死なのがよくわかる。週末に充実した生活を送れるのは良いことだが、ストレスがたまって人格形成において問題が出てこないか心配。**「勉強も大切だけどのびのびさせてあげたい。」**

学力だけでなく、子ども同士の交流、団体生活、他人への思いやりなど社会生活を営む上での能力を重視する声も目立った。

勉強ばかりでなく**「出来るだけ多くの体験や遊び」を経験させたい」**

「けじめのある学校、ボランティア、課外活動など勉強だけでなく人として大切なことを教えてくれる学校」



子どもに社会性を身につけさせてくれる学校。大勢の違う個性の人たちをお互いに尊重し、認め合いながら協力して生活していける能力を身につけられるところ」

命の大切さ、生きるということをしっかり教えて欲しい」

基礎的な学力をつける指導をしていただきたいのはもちろんですが、家庭ではできないお友達との関わり合い方などについて、目を向けて欲しい。」

学力もさることながら、小学校時代にはもっともっと大切なことがある。それは人と人とのつながり、喧嘩したり助け合ったりしながら人間関係ができていく土台作りの時だと思います。これができていれば、この先いろんな壁にぶつかっても乗り越えていけるのでは」

将来、自分がどうしたいのかということを常に考えさせてくれるような、社会と直結した学校」

選択肢によるアンケートでは、「基礎学力だけでなく、発展的な内容を学び、難易度の高い学校に進学できるだけの力をつけてくれる学校」は上位にならなかったものの、学力低下を危惧する声は多くみられた。保護者たちは、私立中学受験は目指さないまでも、基礎プラスアルファくらいの発展的な内容は求めていると考えられる。

指導要領のレベルが低くなったので、出来ない子もここまでは、というのではなく、出来る子にはさらに発展した問題もさせて欲しい。補習授業という形でもいいし、出来ない子の補習も必要だが出来る子にも発展補習授業をして欲しい」

基礎的な教育はもちろん、そこから応用力を養えるような教育ができる学校であって欲しい。詰め込み式ではいけないと思う」

難易度の高い学校に進学することが目的なのではなく、基礎だけ理解しても応用ができないと意味がないと考えるので、応用力を身につけるヒントを与えて欲しい」

個別指導、子ども一人ひとりに合った指導へのニーズも強く、また学習面だけでなく個性の重視を求める声も多く見られた。

現代は親も子どもも個性の幅が広く、大勢を一つの教室に押し込めるとトラブルがおこりがちなので、20人くらいで1学級を作るか、1クラスに教師を2人つけなどして、一人ひとりの生徒に目が行き届くように工夫する必要がある」

小人数制で一人ひとりに教師の目がきちん行き届いている学校。いじめのない、たとえあったとしても、全員で撲滅しようとする勇気と思いやりを引き出し実行できる学校」

「一人ひとりの能力や個性を把握してくれて、良い部分を伸ばしてくれる学校」

「一人ひとりの個性を認めてくれる学校。運動会で順位をつけない学校が増えていると聞きます。運動をできる子を偉いとほめてくれて、勉強ができる子も偉いとほめて欲しいです。親切な子の一番とか、リーダーシップをとったら右に出るものはいないとか、その子のいいところを誉めてくれるといいです」



学校経営や、保護者と学校の関係に関わる意見も若干見られた。

「文部科学省に惑わされない、学校独自のしっかりした教育方針や、教育システムを持っていること。たとえば、近年ゆとり教育を謳い、そのために、逆に子ども達の平日の授業にしわ寄せがきています。これは文科省の失敗であると私は考えています。」

民主的で情報開示ができていること」

「この学校では何を目標しているか（一般的な話ではなく独自のポリシーのようなもの）をもっと保護者にわかりやすく（理念ではなく具体例を一つひとつ）示してくれるといいと思う」

「校長が変わるたびに教育理念が変わるのはよくない」

教師間のコミュニケーションが活発に行われている風通しのいい学校」

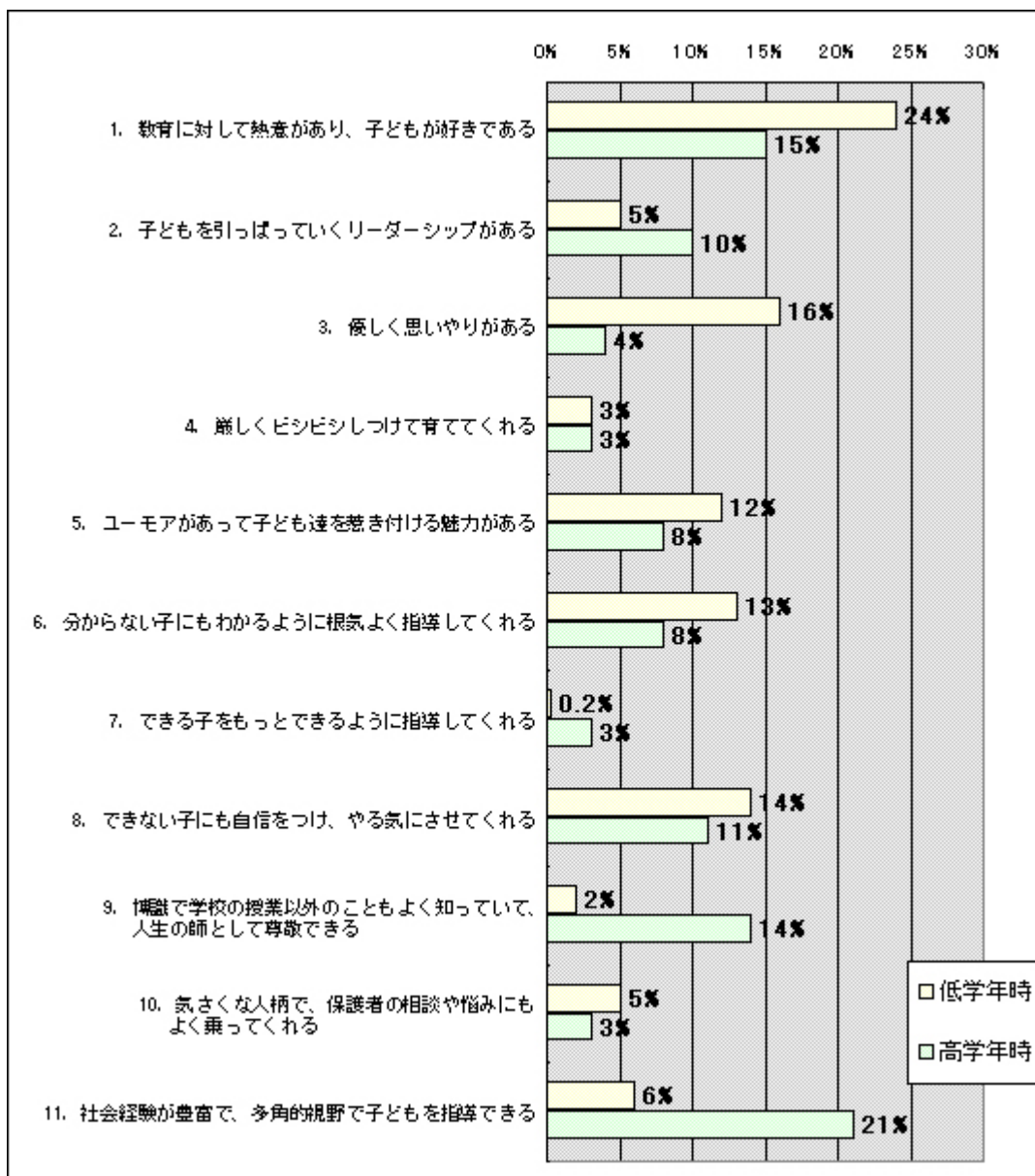
昔のような学校にもどって欲しい。今は子どもを叱るにも遠慮気味で子どもに伝わらないと思う  
親とももっと関わって本音で話せる先生が増えて欲しい」

「先生と生徒が一体化しており 何でも一緒に考えられる学校」

若い先生がたくさんいて、各学年ごとにまとめ役のベテランの先生がいる活気のある学校。カウンセラーの先生が数人いて、子どもがクラスとは関係なく、悩みを相談できる体制が整っている。生徒（親）側から教師を評価できるシステムがある。給食はセンター式ではなく自校式がよい。カフェテリアなら尚よい。」



Q2 あなたの理想とする教師像はどのようなものですか。



<低学年の場合>

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
全体	600	142	29	97	15	74	76	1	85	14	31	36
	100%	24%	5%	16%	3%	12%	13%	0.2%	14%	2%	5%	6%

<高学年の場合>

	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
全体	600	91	59	25	20	48	46	18	64	84	19	126
	100%	15%	10%	4%	3%	8%	8%	3%	11%	14%	3%	21%



理想の教師像を聞いたところ、低学年では、「教育に対して熱意があり子どもが好きである」が最も多く24% (142名)、次いで「優しく思いやりがある」16% (97名)、「できない子にも自信をつけ、やる気にさせてくれる」14% (85名)、「わからない子にも根気よく指導してくれる」13% (76名)、「ユーモアがあって子どもたちを惹きつける魅力がある」12% (74名)の順となった。

高学年では、「社会経験が豊富で、多角的視野で子どもを指導できる」が21% (126名)で一位、以下、「教育に対して熱意があり子どもが好きである」15% (91名)、「博識で学校の授業以外のこともよく知っていて人生の師として尊敬できる」14% (84名)と続く。

全学年とおして、「熱意があり子ども好き」な先生は根強い人気があると言える。その上更に求められる要素としては、低学年では、基礎学力の指導をきっちりしてくれること、高学年になると、それに加え社会人として必要な知識や進路について適切なアドバイスができるような資質も求められることがわかる。

「できる子をもっとできるように指導してくれる」先生は、特に低学年で0.2%と低い回答率だった。「優しくびびりしつけて育ててくれる先生」は全学年とおして評価は低かった。

自由記入では、学習指導に関する記述より、子どもへの対応の仕方、人柄についての記述が圧倒的に多く、また、その要求はかなり高いものである。これだけの期待に答えるというのは酷な気もするが、少なくとも、「子どもが好き」で「子どもの目線に立ち」「公平で」「謙虚」で「感情的に怒ったりせず」「倫理観もあり」「親からも子どもからも「信頼され」「尊敬される」教師でなければ保護者たちの満足を得ることは難しそうだ。

**子どもが好きであることが第1条件。**それがなければ子どもを惹きつけることも、教えることすらも難しいのでは。高学年になるほど子どもはそれを鋭く感じ取ると思います。」

子どもに対する最低限の愛情があること、小さな注意や小言でも子どものためを考えてのことでなければ「大切な我が子に何するの」と思うし、例えばビンタをされてもその子のことを考えての愛の鞭であればありがたいと思う。教員の資格は、学力より何より **教育者としての人間性**を重視して欲しい。子ども嫌いの教師なんてもってのほか。全員ではないにしても、ニュースで聞く、現代の教師には失望する」

**教師は聖職**と思っています。給料をもらって仕事をするサラリーマンとしての教師はいりません。やはり子どもが好きで親より子どもから信頼され尊敬される教師がいればと思います。」

やさしいばかりでなく、時には厳しく、子どもと一緒に遊んだり考えたりしてくれる先生。**子どもに自信をつけてくれて、解らないことなどは解るまで指導してくれるような先生**」

状況に応じて**優しさと厳しさのバランス**がとれている先生や、子どもたちみんなに公平で、表現力が豊かで、誉めるときや叱るとき基準が一定していて、子どもに社会生活での善悪の判断をしっかりと指導できる先生」

現在の公立校のことですが、**保護者をお客様扱いしている**感じがあります。保護者と対立しても、良いことは良い、悪いことは悪い、怒るときにはしっかりと叱る、誉めるときはしっかりと誉めるといって欲しいです。また、保護者に対して子どもの良い部分を話すだけでなく、直したほうがよいところや、学校での問題点をしっかりと教えて欲しいです」



最近の教師は、教師としての自覚に欠けている人が以前より多いような気がする。**教師としての誇りを持って**指導にあたってほしい。理想というより最低限のことだと思う。理想を言うなら、子どものことを真剣に考えてくれる先生。しかも指導力があり、授業がよくわかる。一人ひとりの子どもをよく見てくれる先生。」

**子どもと真摯に向かい合う**ことを面倒がらない先生。先生なりの教育理念を持っていること。(そのことで子どもを自分のイメージにめよとしないこと)」

子どもによって違うと思うので特別な理想像はないが、しいて言えば、きちんと子どもの話を聞いてくれて、対応してくれる先生です。親の疑問や相談にも耳を傾けてくれる先生が良いです。」

「小学校の教師は『勉強を教える』というよりも**『人間性を育て』**存在だと思います。小学校の先生の言動は子どもたちの未来に大きく関わるといえることを踏まえ、子どもたちの心の中に上手に入り込み、時には引っ張り上げ、時には後押しして、まっすぐ健やかに育っていこうとする子どもの本音を、より輝かせて欲しいと思っています。」

「人間性豊かな人。『指導』ということではなく、子どもの気持ちに寄り添ってくれる人。長所も短所も含めた個人としての子どもを尊重し、大切に包み込み、育ててくれる人。」

子どもと一緒に遊んでくれる。子どもの心を理解しようと努めてくれる。子どもの個性を認めてくれる。とおりいっぺんな考え方ではなく、色々な角度からの考え方ができる。」

教師としての学力が備わり一人の人間として**倫理観のある人**。できれば**社会経験の豊富な偏りのない人**が理想。教師も児童も人間なので人間同士の接し方をしてくれる人。」

「とにかく子どもに尊敬される大人であればと思います。勉強以外のことにも積極的に取り組んで欲しいです。私の恩師は、同和教育やボランティアにも積極的に、日曜日に子どもたちをバスで連れて、養護施設へ手伝いに行きました。また、夏休みに海水浴にも連れて行ってくれました。何かにつけ、とても**情熱的**な先生だったと思います。これが、私にとって理想の教師像です。」

子どもたち全員が『先生が好き』と言えるような先生が絶対条件だと思います。それによって、子どもたちは自然に色々なことに挑戦していけるでしょうし、授業も熱心に受ける事ができていくのではないのでしょうか？私自身、実際にあったことですが、先生が子どもたちから『なぜ、先生になったのか』と質問されて『給料が良かったから』と答えた先生がいました。こんな先生は、もってのほかです。」

**好奇心旺盛で博識**、どんなできごと、状況も、学習のネタにしてしまえる柔軟性を持つ。形だけにとらわれず、何が一番大切かをその場その場で臨機応変に判断し、子どもの芽を発見、伸ばしてやれる教師。」

教師という仕事を選択したのですから、先生だって人間だけれども**プロ意識**を持ってほしいと思います。今の先生は事なかれ主義の人が多いような気がします。」

少子化で担任する人数も少ないと思うのでインターネットを使った**交換日記**をしたり**一人ひとりに接する**時間をもっと持ってほしい。」